

研究所だより

特別号 令和5年9月
発行: 草津市立教育研究所

今号は、1学期の自己啓発講座と夏休みのスキルアップ講座、夏季研修講座、研究発表大会について掲載しています。

スキルをみがくたび



自己啓発講座

第1回 草津市教職員自己啓発講座 (音楽)

箏(こと)を弾いてみよう

6月26日(月) 福井大学教育学部 臨時講師 麻植美弥子さん



日本の楽器「箏(こと)」について知る

*箏(こと)の各部位の名称

子どもたちに伝えるときは龍に
例えると、名称が覚えやすいです。

*調弦<演奏の前に柱(じ)を立てて弦の音を合わせておくこと>

チューナーやアプリなどを用いて、音を合わせていきます。

*爪(つめ)

箏(こと)を弾くときは、右手の親指、人さし指、中指に爪をはめます。

他にも...

演奏するときの姿勢、出だしの心構え、箏(こと)の楽譜の読み方等、教えていただきました。



音色を味わう、余韻を楽しむ

<教えていただいた授業のアイデア>

○情景を思い浮かべさせるために...

小学校4年生の場合、年間指導計画では、3学期に「日本の音楽でつながろう」という単元で箏(こと)に触れる学習があります。ただ、教材のCDには、「さくら」という曲の箏(こと)の演奏が収録されているので、桜が咲く4月に前もって聴かせておくといいでしょう。情景を思い浮かべやすいので、音色をより味わうことができるのではないのでしょうか。

○小学校で経験のある中学生には...

基本的な弾き方だけでなく、合せ爪(あわせづめ)やかぎ爪、割り爪、すり爪、押し手、引き色など演奏の仕方でも音色の変化を楽しませてみましょう。このとき、弾いた弦の余韻が音色を決めるので、その部分を聴くように伝えるとより味わえると思います。

○少ない数しか楽器がないときは...

数人でグループを作り、順番にリレー形式で演奏するといいでしょう。自分の担当部分だけを練習し、1つの曲をグループで仕上げれば短時間しか触れていなくても、子どもたちに達成感をもたらすことができます。「さくら」の曲がオススメです。7つのパートに分けられます。

参加者の感想 満足度 ★★★★★...4名 ★★★★★...1名

- ・実際に箏(こと)の演奏ができて楽しかったです。同じ楽しさを子どもたちと味わいたいと思いました。また、少ない人数でのリレー演奏など、大変参考になりました。
- ・実際に箏(こと)を弾いてみて、次は自信をもって子どもたちに教えられそうだなと思いました。
- ・体験をさせてもらって、教師もまず、楽しむことが大事だなと気づかされました。
- ・ほとんど独学だったので、基礎をしっかりと教えていただいて、ためになりました。

NEW 草津型 AL と ICT を活用した二学期からの学習計画づくり

<スキルアップ夏期支援講座>



今年度のスキルアップ支援夏期講座は、7月25日（火）に小学校の先生方を対象に、また8月1日（火）に中学校の先生方を対象にいずれも教育研究所で実施しました。



講座では、前半に学校政策推進課より、草津型アクティブラーニングのポイントと、そのための ICT（特にロイロノート）の効果的な活用方法についてお話いただき、2学期以降の実践への意欲を高めることができました。後半は、学年や教科ごとに、2学期の単元の中から ICT を活用した指導案づくりを行いました。普段関わりがあまりない他の学校の先生との意見交流を通して、多様な見方や考え方にふれることで学びを深めるとともに、ロイロノートの活用についても具体的にイメージすることができていたようでした。

2学期は、対象の先生方の研究授業を実施していきます。各学校でも、できる範囲で同学年や同じ教科担当の先生、また OJT などの組織としても参観していただき、一緒に学びを深めていけたらと思います。

参加者の感想（事後アンケートより）

1. NEW 草津型 AL と ICT 活用のポイントについて

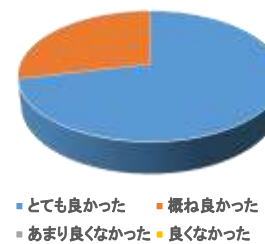


ロイロノートの使い方や活用方法のイメージをもつことができました。社会科指導のなかで「意見を交流させる」ときや、「思考を整理する」ときにロイロノートは有効であると感じました。2学期の実践のなかで、スキルアップ支援のご助言もいただきながら試行錯誤し、活用していけたらと思います。（中）



単元構想づくりでは、どこで ICT を使えばいいのかばかりを考えていた。しかし、単元を構想する時に一番大切なことは学習指導要領に目を通すことであり、そこが疎かになっていた。次からは、学習指導要領に必ず目を通して単元を構想していきたいと感じた。（小）

2. 演習 ICT を活用した単元構想づくり



同じ学年を持つ先生方と意見を交わしながら単元構想を練ることができ、有意義な時間となりました。ICT 活用の場面はもっと柔軟に考えていてよいのだと感じました。（小）



2学期の授業づくりに向けて有意義な時間を過ごすことができました。ロイロノートの効果的な利用については全く実践できていない現状があります。使い方を自分が習得していないことが大きな理由だと思うので、まずは使ってみて慣れていく中で、より良い活用の仕方を探っていききたいと思います。2学期の授業では、ロイロを中心に考えず、学習活動の一部として使っていけたらと考えています。（中）



単元構想シートを作成した際、ICT を使うことはもちろんであるが、教師が提示した意図的な学習の仕方になってしまっていた。授業の中でどのように3つの観点を取り入れるのかというところが学びになった。（小）



夏期研修講座

●…講座のポイント、◎…感想

今年度も、夏期研修講座を開催することができました。ありがとうございました。のべ644名の先生方が参加して下さりました。各講座の概要と感想を掲載していますので、各自の御実践の参考にいただければと思います。

| | | | |
|---|--|-----|---------|
| 講座名 | 【人権教育講座】 「自分を解放するための人権学習 ～部落問題学習を核として～」 | 開催日 | 8/3(木) |
| | | 人数 | 57名 |
| 講師 | 大阪多様性教育ネットワーク共同代表 土田 光子さん | | |
|  | <p>●刷り込みからの解放をめざすのが人権教育であり、優しさや思いやりだけでは差別はなくなる。多様性教育(反差別の教育)は、自分の中にある差別性(生まれながらに持っている有利さ/特権)に気づき、差別の構造を学ぶことが重要である。</p> <p>●多様性教育は、「加差別からの解放」⇒「自己解放」をすべての子どもたちに！</p> <p>◎今までの自分の感覚が無意識のうちに差別になっていることに気づかされました。日頃の発言や考え方を振り返り、視点を変えて物事を見ることの大事さを学びました。</p> <p>◎社会が作り上げている差別の構造を知ることも大切だと気づかされました。人権問題や人権学習の捉え方、子どもたちとの向き合い方を見直すきっかけになりました。</p> | | |
| 講座名 | 【生徒指導講座①】 「危機管理的な視点で事例を見立てる生徒指導 ～事例検討を通して～」 | 開催日 | 7/27(木) |
| | | 人数 | 61名 |
| 講師 | 長野総合法律事務所弁護士 草津市学校問題サポートチーム スーパーバイザー 峯本 耕治さん | | |
|  | <p>●ケース検討、とりわけ命に係わる事案、いじめと関係性があると思われる中長期の不登校は、<u>早期に組織での対応</u>(アセスメントとプランニング)が必要。</p> <p>1. 教育の視点 2. SSWの視点 3. 法的リスク の3つの視点から考えていく。</p> <p>●子どもの問題行動には必ず意味があるので、その原因を探って早期に対応が必須。</p> <p>◎生徒指導対応は多岐にわたり、正解がなく、様々なことを想定する必要があります。今回、多くの事例をもとに紹介していただいたので、これからは活かしていきたいです。</p> <p>◎どの指導、対応においても、アセスメントとプランニングをしっかりと行い、主体的に対応することを学校全体として心がけていく必要があると感じました。</p> | | |
| 講座名 | 【生徒指導講座②(子ども家庭・若者課主催)】 「子ども・家庭を取り巻く現代的課題と対策について」 | 開催日 | 7/26(水) |
| | | 人数 | 47名 |
| 講師 | 子ども家庭庁参与 辻 由紀子 さん | | |
|  | <p>●現代の若い世代(子ども)が抱える問題に対して、その背景にあるものを読み取ることが大切。暴言・暴力、試し行動、荒れた言動などには、そこに至る理由が必ずある。</p> <p>●大切なのは「<u>受援力</u>」⇒個人として社会と関係を持って生きる精神的自立が大切。</p> <p>・他者に助けを求め、快くサポートを受けられる力(限界を知って心の声を聴く力)</p> <p>・傷つける人から、自分で距離を置き、大切にしてくれる人の所へ行くとする力</p> <p>◎「愛を持った指導とは、自分の価値観を押し付けないこと」の言葉が印象に残りました。</p> <p>◎関わり方が子の成長に響くことを考えると、教職員の役割はとても大きいと感じました。</p> | | |
| 講座名 | 【教育相談講座①】 「不登校児童生徒とその保護者に寄り添って～学校復帰、あるいは社会的自立をめざす支援について～」 | 開催日 | 7/27(木) |
| | | 人数 | 56名 |
| 講師 | オープンスペース祐の風代表 藤原 祐子 さん | | |
|  | <p>●HSC (Highly Sensitive Child)とは人一倍、精神的にも肉体的にも敏感な子で、その特性は個々によってさまざま。大切なことは、その特性を理解しようとする姿勢(全肯定、全承認から)。見方を変えたら、その子の良さが見えてくる。</p> <p>●「言っていることを信じる」、「一旦、受け止める」「その子のペース、タイミングに合わせる」「解決策を一緒に見つける(HOWの質問)」…そんな付き合い方を意識する。</p> <p>◎HSCの子に限らず、様々な子どもの育ちに大切な関わり方を学ぶことができました。</p> <p>◎良かれと思って話していることが逆にプレッシャーを与えてしまうことを知りました。一人ひとりの気持ちや背景を考慮することが大切だと思いました。</p> | | |

| | | | |
|-----|---|--|---------|
| 講座名 | 【教育相談講座②】 「先生方のメンタルヘルス ～少し楽になりませんか～」 | 開催日 | 7/24(月) |
| | | 人数 | 49名 |
| 講師 | 龍谷大学特任教授 山口 浩次 さん | | |
| |  | <ul style="list-style-type: none"> ●少し楽になるために、考え方を見直す。たとえば、 否定「〇〇だからだめ」⇒肯定「〇〇すれば良いよ」など言い換える力を身に付ける。 「聴く」が「効く」…正論よりも傾聴が大切 しんどいときは「まあええか！」 ●コーチングでは、対話を通して相手の悩みがどこから来ているか判断し、答えを本人が見出せるように整理して待つことが重要。相手から考えを引き出す問いかけを！ ◎コーチングを実際に体験して、自分の思いが話せたことで気持ちが楽になりました。 ◎良い職場環境をつくっていく上でも、温かい声掛けや一方的に答えを押し付けるのではなく双方向から考えを伝え合える方法が重要であると感じました。 | |
| 講座名 | 【特別支援教育講座】 「この子たちの応援団になりたい3 ～私たちだからこそ できること～」 | 開催日 | 8/4(金) |
| | | 人数 | 56名 |
| 講師 | 野洲市立野洲小学校 校長 細谷 亜紀子さん | | |
| |  | <ul style="list-style-type: none"> ●様々な子どもたちが同じ教室にいる中で学級担任としてどうするか… →子どもたちの学び方の特徴を捉え、できるだけ多くの子どもたちが学びやすい授業づくりをめざす。個への合理的配慮を検討していく。たとえば… ・選べるプリント(文字の大きさ、問題数や量など) ・書く分量の調整(書かない選択) ・筆記具の変更 ・デジター教科書の利用 ・座席の工夫 ・ルール明確化 など ●卒業生の言葉より 『どうしてできないの?』は悲しい。わかってくれる人との出会いがとても大きい。』 ◎成長した子どもたちの話を聞き、今、自分のやっていることが子どもの成長につながっていることがよくわかりました。励ましてもらい、これからも頑張ろうと元気が出ました。 | |
| 講座名 | 【学力向上講座①】 「国語授業の『個別最適な学び』と『協働的な学び』 ～主体的な学びを支える『ロングレンジ』の学習活動～」 | 開催日 | 7/26(水) |
| | | 人数 | 74名 |
| 講師 | 京都女子大学教授 水戸部 修治さん | | |
| |  | <ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが自らの学びを調整していく力が発揮される学びへ ・一定程度の長い時間の中で、魅力的な言語活動のゴールに向かう ・ゴールイメージや解決方法の見通しをもって学習活動等を選ぶなど試行錯誤する。 ・自立的に判断して学習活動を進めていく ●学びの推進力を引き出す課題設定や自立的に判断できる手立ての創意工夫を！ ◎並行読書マトリックスやモデル授業動画など指導の工夫を知ることができました。 ◎個別最適な学びを支えるためには、教師の明確な意図と入念な教材研究が必要で、それにより、子どもたちの学びも深まっていくのだと感じました。 | |
| 講座名 | 【学力向上講座②】 「小学校・中学校外国語かにおける<目標>(指導)と評価の一体化に向けて ～中間評価の在り方について～」 | 開催日 | 7/24(月) |
| | | 人数 | 34名 |
| 講師 | 佛教大学准教授 赤沢 真世 さん | | |
| |  | <ul style="list-style-type: none"> ●スモールトークは、言語活動を繰り返す中で、途中に適切なフィードバックを行う。 ●中間評価での適切なフィードバックを行う「目標・評価⇒指導」の一貫が大切。 ●児童と教師、双方が目標(A評価、B評価の姿)を共有していることが大切 ◎つまずきの仕掛けや言語活動、パフォーマンス課題の設定などの工夫によって、子どもの学ぶ姿勢が変わるということ動画を目の当たりにし、子どもの「やってみよう」「できた」をたくさん引き出す手法を他教科でも取り組んでいきたいと思いました。 ◎目標を子どもたちと共有して中間評価を行う重要性について知ることができました。 | |

| | | | |
|--|---|-----|---------|
| 講座名 | 【ESD・ICT教育講座】 「ICTでSDGsを具現化する～社会に出る子どもたちへの教育について～」 | 開催日 | 7/31(月) |
| | | 人数 | 40名 |
| 講師 | 日本ソフト開発株式会社代表取締役会長 藤田 義嗣 さん | | |
|  | <ul style="list-style-type: none"> ●ICT機器を使うのは人、SDGsを進めていくのも人、つまり今、求められるのは… <u>人間力を養う教育</u>…IQは必要条件だが、EQ(心の知能指数)こそ絶対条件 ●人材から人財へHX(Human Transformation)すべては、人で決まる世界観を共有していく。流行に準じた技術を持つだけでは不十分、不易な価値(精神文化)も理解して、不易流行の両方に生きる人の育成を学校現場では進めていただきたい。 ◎持続可能な社会をめざす教育活動の実現のため、ICT活用として様々なシステムがあることを学びました。また、システムの利便性が高まる中で、それを使用する人材の存在が最も重要であるということも整理することができました。 | | |
| 講座名 | 【くさつ教員塾・幼児教育講座(幼児課共催)】 「遊びと学びをつなぐ円滑な接続に向けて」 | 開催日 | 8/3(木) |
| | | 人数 | 79名 |
| 講師 | 滋賀文教短期大学教授 伊藤 孝子 さん | | |
|  | <ul style="list-style-type: none"> ●小1プロブレムの問題が顕著化する中で、幼少連携・接続の推進は不可欠。 ●幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」を念頭に、一人ひとりの発達に必要な体験が得られるような状況作りと必要な援助体制が大切である。 ●子どもたちが遊びの中で、自分なりに試行錯誤を繰り返しながら、主体性を育めるように学びをつないでいく。 ◎接続の重要性や必要性を園、小学校いずれも意識できるように伝達したいです。 ◎遊びの中にある学びの部分が小学校の学習につながっていることがわかりました。 | | |



研究発表大会

| | | | | | |
|--|---|--|--|--------------|--|
| 第一部 | 令和4年度 草津市教育研究奨励事業 表彰者による発表 | | 開催日時 | 8/2(水)13:00～ | |
| | | | 参加人数 | 48名 | |
| |  | 廊下改造プロジェクト ～2階から感じる身近な自然環境～ 笠縫東こども園 吉村 涼 さん (現矢倉こども園) | | | |
| |  | 『中学校社会科授業における知識・技能の階層を意識した学習課題の設定』 ～知るだけから分かる、使える知識の習得を目指して～ 草津中学校 教諭 水谷 哲郎 さん | | | |
| |  | 『自分から・いっしょに・できた！』本気になれる探究的学習を目指して ～OIKAMI 型スクールESDの創造～ 老上小学校 教諭 小森 裕美 さん | | | |
| (参加者の感想) ◎自分自身の授業作りや評価のヒントになりました。他校種の実践からの学びも活かしていきたいです。 ◎どの研究も、目の前の子どもの実態に合わせ、付けたい力を身に付けるには、どう働きかけたらよいかを考え、実践しておられて勉強になりました。私も付けたい力を意識しながら実践していきたいです。 ◎今年度、論文を書くにあたり、大変参考になりました。自分の研究実践に活かしていきたいと思います。 | | | | | |
| 第二部 | 令和4年度 研究員の調査研究報告・教育講演会 | | 開催日時 | 8/2(水)14:30～ | |
| | | | 参加人数 | 43名 | |
| | 研究報告 |  | 自ら「はてな」を見つけ、「やり方」を考える子を育てる算数授業 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動を工夫して～ 令和4年度 草津市立教育研究所 研究員 杉本 久美香 | | |
| | 教育講演会 | 演題 | 「性の多様性から人権について考える」 | | |
| | | 講師 | にじいろ i-Ru(アイル) 田中 一步 さん 近藤 孝子 さん | | |
| |  | (講演の概要) ●性のありようは多様 ・性自認、性的指向は、教育やしつけで変わらない ←違いを否定しない ・見た目で決めつけない ←見た目では分からないことの方が多い ・自分が納得できる性で生きる、自分の信頼している人にそれが語れることが大切である。 ●教師、保育士、大人として当たり前を押し付け、少数派(マイノリティ)の立場にいる子どもを苦しめていることはないか。授業、保育において、改めて考えなおす必要がある。 | | | |
| (参加者の感想) ◎性の多様性について、自分が知識として知っていると思っていたことでも、教師としてどの子どもも安心して過ごせるように関わっていたのか、振り返るよい機会となりました。 ◎性に関して悩み、辛い思いをしている子がいるかもしれないということを常に考えて、子どもたちと向き合いたいです。どの子どもお互いを受け止め、自分らしくいられる居場所を作っていきたいです。 | | | | | |

今後も、教育研究所では、ニーズに合った研修を企画していきたいと思っております。スキルを伸ばしたり、幅広く学んだり、御自身の教養を深めるのに、ぜひ当研究所の講座を御利用ください。お待ちしております。

